

岡崎における第三者敬語の位置づけ

Placement of Third Person Honorifics in Okazaki

(Ver. 1.0)

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

辻 加代子・井上史雄

TSUJI Kayoko・INOUE Fumio

平成 27 年 9 月 1 日

1 Sep 2015

岡崎における第三者敬語の位置づけ

辻加代子・井上史雄

1. はじめに

本発表では、愛知県岡崎市で行われた敬語と敬語意識に関する大規模経年調査（以下、岡崎敬語調査と呼ぶ）のうち、2008年に実施された第3次調査から調査項目に加わった第三者敬語に関わる項目の調査結果を中心に分析・考察したことを報告する。

第三者敬語というのは、会話の当事者である話し手と話し相手以外の、話題の人物（第三者）への配慮を表す敬語のことである。話者は第三者に言及する時、話者自身と第三者との関係、話者自身と話し相手との関係、話し相手と第三者との関係を考慮して適切な待遇表現を選ぶことになる。ただし、これら三つの関係の重視の度合いや、関係そのものを相対的に捉えるか否かや、地位や身分などを絶対的基準により捉えるか否かなどは、言語や方言により、あるいは時代により異なる。例えば、日本語の敬語運用上の変化として、絶対敬語から相対敬語への変化（金田一 1959）、さらには「敬語体系全体の丁寧語化」（井上 1981）が説かれるのは、この第三者敬語の使い方と関係している。

また、現代の日本語では、第三者敬語と、話し相手への直接的配慮を表す敬語（以下聞き手敬語と呼ぶ）とで用いられる敬語語彙にも異なりがある。一般に狭義敬語のうち尊敬語や謙譲語は第三者敬語に用いられ、丁寧語は聞き手敬語に特化して用いられる。聞き手への配慮は上の他にも、終助詞を使い分けたり、推量表現などにより婉曲に言ったりして敬語以外の言語項目を用いて表されることもある。

表題で「位置づけ」の語を用いたのは二つの意味合いがある。

まず、岡崎市の話者は、実際、第三者をどのような敬語を用いて待遇していて、それは話し相手によりどのように変化するか、さらに、同じ人物に言及する場合、話し相手として待遇する場合と、第三者として待遇する場合とで、用いる敬語表現にどのような違いがあるかということである。そうすることにより、当地の敬語運用がどのような類型に属するか明らかにできよう。

もう一つは、当地の敬語運用が全国的に見てどのように位置づけられるか、ということである。井上（1981）では、全国の広い地域で「敬語体系全体の丁寧語化」が認められるとしている。一方、宮治（1987）では、近畿中央部では、「面と向かって話す場合よりも、第三者として話題にする場合に素材待遇語が多用される」運用が見られることを報告している。また、加藤（1973）では、近畿はじめ西日本で他人に向かって家族のことを話す場合、尊敬表現を用いる「身内尊敬用法」が行われているとしているが、その点についてはどうであろうか。

以上二つのことを明らかにしていくことが本発表での目的である。

2. 分析方法

2.1 分析する場面とデータ

本発表では、岡崎敬語調査の根幹部分をなす敬語行動に関する面接調査の質問項目（100番台の質問項目）のうち、第3次岡崎調査で追加された115～118場面と第2次調査から加わった114場面に対する反応文のデータを主たる分析対象とする。これらの場面では、他の場面と異なり、いわゆる標準語翻訳方式の質問となっている。以下に各場面の調査文を示す。〔 〕内は場面の略称。

◇分析対象場面と調査文（下に記す番号は第3次調査のもの）

114〔先生の絵〕（第2次調査では115番）

尊敬している先生にむかっていう時のことばについておたずねします。「この絵は先生がかいたのか」とたずねる時、ふつう何と言いますか。

115〔第三者__尊敬表現【話し手<話し相手<話題の人物】〕

あなたが40代の中学校の先生、鈴木先生に会って「校長先生は今学校にいるか」ということを知るとします。そんな時には「いるか」ということをどう言いますか。

116〔第三者__尊敬表現【話し手<話し相手>話題の人物】〕

逆に、校長先生に会って「鈴木先生は今学校にいるか」を知るとすると、「いるか」はどう言いますか。

117〔第三者__尊敬表現【話し手=話し相手<話題の人物】〕

では、友人に「鈴木先生は今学校にいるか」を知るとすると、「いるか」はどう言いますか。

118〔第三者__謙譲表現〕

この土地の目上の方が訪ねてきました。その人にむかって、非常に丁寧に「私の父はすぐ来ますから、ちょっと待ってください」と言うとき、「すぐ来ますから」のところをどう言いますか。

概略、114場面は話し相手を直接待遇する場合の、115～117場面は第三者待遇での敬語使用状況を調べる設問である。

118場面の調査文は、『方言文法全国地図』第6集〔一表現法編3(待遇)一〕(2006)の315図と316図の文言と同じであり、他人に対して、身内の目上の人物を話題にする場合の、待遇表現の選択を確認する設問である。もし、謙譲語が選ばれれば、相対敬語的運用が行われていることになるし、尊敬語が選ばれれば、絶対敬語的運用、ないし、身内尊敬用法行われていることになる。

この身内尊敬用法に関しては、113〔市役所〕場面についても補足的に分析する。これは、父に頼まれて市役所に行くところだということを目上の人に言う、という場面である。

分析したデータは、第3次調査の上記すべての場面、第2次調査の〔先生の絵〕〔市役所〕場面、第1次調査の〔市役所〕場面である。

サンプルに関しては、ランダムサンプリングによる継続調査サンプル（トレンドサンプル）のみを対象とした。

2.2 分析方法

114～117 場面に関しては、回答に出現した形式を、三段階に分けて分類の上、集計した。

◇分類の三段階

「大分類」：大まかな敬語使用状況をつかむために分類した。

尊敬語ないし謙譲語類や、丁寧語、丁重語¹を使うか。

*丁寧語に関しては、動詞に直接続く場合だけでなく、助詞「の」（「ん」）を介して続く場合や、名詞を介して続く場合もカウントした。

（例）

「中分類」：二重敬語や三重敬語、聞き手配慮の表現の詳細を加えたもの。

「尊敬語（謙譲語）使用形式」：具体的な使用形式を、主語と対応する述部についてのみ分類した。

◇分析方法

上記三分類により、場面毎の使用実態を分析した。

3. 結果と考察

3.1 第三者敬語使用状況

3.1.1 敬語大分類の結果

第3次調査における「第三者__尊敬表現」場面（115～117 場面）の集計結果（大分類による）を表1に示した。表1では、話し相手への待遇の仕方を問う114〔先生の絵〕場面も参考として示した。この場面は他とは設問が異なるが、質問の形の回答を要求している点で、他との共通点があり、主語に「尊敬する先生」をとる点は、115 場面や116 場面に近いので、比較になると考えたためである。

¹本発表で用いる「丁重語」の用語は、デゴザイマスを限定的に指す用語として用いる。デゴザイマスは丁寧語デス・マスよりさらに丁寧な、「上級の丁寧表現」（加藤 1973）として使われる形式である。敬語研究での用語としての「丁重語」は、宮地(1971)では「話題のものごとの表現をとおして、話し手が聞き手への配慮をしめす敬語」だとされている。その所属語としては、現代語では「ござる」の他にも丁寧語マスを必ず伴って使われる「いたす・存じる・まいる」などがあげられるなど本発表より広い意味で用いられるのが一般的である。菊地（1994）でいう謙譲語 B（後の版では「謙譲語 II」）にほぼ重なる。

表 1 114～117 場面に現れた敬語形式（大分類による）

セル内の数字は回答数

	114 先生の絵	115.第三者_尊敬表現 【話し手<話し相手<話題 の人物】	116.第三者_尊敬表現 【話し手<話し相手>話題 の人物】	117.第三者_尊敬表現 【話し手=話し相手<話題 の人物】
尊敬語+丁寧語	1	0	0	0
尊敬語+丁寧語	252	275	239	44
尊敬語+ス	1	0	0	0
尊敬語	0	5	4	46
V+丁寧語	35	22	52	39
{N/ナadj}+丁寧語	4	0	1	0
V+ス	2	1	0	0
ナadj+カン(丁寧終助詞)	1	0	0	0
動詞普通形式	7	1	2	170
その他	0	1	0	2
NR	3	1	8	5
合計	306	306	306	306

〈凡例〉 V : 動詞普通形式 ナ adj. : ナ形容詞

《結果》

- (1) 尊敬語と丁寧語を用いた回答が 114～116 場面で極めて多く、とりわけ校長先生を話題とした 115 場面が 275 例（90%）と多い。
- (2) 丁寧語は 114 場面でのみ用いられている。（第 2 次調査〔先生の絵〕では 10 名使用）
- (3) 尊敬語だけの用例は、友人が相手の 117 場面に多く（46 例）みられる。他の場面では、0～5 例でごく少ない。
- (4) 丁寧語だけを使用するという回答は、鈴木先生を話題として校長先生を話し相手とした 116 場面に多く（52 例）、117 場面、114 場面と続く。
- (5) 敬語を一切使わない回答は、117 場面で最も多く（170 例。55.5%）、他の場面ではその数は極めて少ない。
- (6) 114 の対者場面の敬語使用の程度は、ちょうど 115 場面と 116 場面との中間である。

《考察》

- (a) 「第三者_尊敬表現」3 場面を比較すると、話し手<話し相手<第三者の順で上位となる 115 場面で最も丁寧な言い方となる。この限りでは、第三者の方が話し相手より強く敬語表現の選択に作用していると言える。
- (b) 話し相手が友人の場合、敬語を使用しない話者が過半数である一方で、尊敬語を使用する話者が約 3 割、そのうち半数は尊敬語のみを使用する。
- (c) 対者場面である 114 場面を第三者場面である 115 場面、および 116 場面と比較すると、その敬語の使われ方は、「尊敬する先生」「鈴木先生」「校長先生」という想定人物間の序列を投影しているようにみえる。

3.1.2 尊敬語形式分類の結果

調査で回答された個別尊敬語形式ごとの集計結果を表 2 に示す。

表 2 114～117 場面に現れた尊敬語形式

	114 先生の絵	115.第三者_尊敬表現 【話し手<話し相手<話題の人物】	116.第三者_尊敬表現 【話し手<話し相手>話題の人物】	117.第三者_尊敬表現 【話し手=話し相手<話題の人物】
オミエニナラレル(三重敬語)	0	2	1	0
イラッシャラレル(二重敬語)	0	2	1	0
オイデニナラレル(二重敬語)	0	1	0	0
オ～ニナラレル(二重敬語)	32	0	0	0
オミエニナル(二重敬語)	0	29	27	3
オイデニナル	0	5	5	1
オ～ニナル	131	0	0	0
イラッシャル	0	172	127	34
ミエラレル	0	0	1	0
ミエル	1	28	47	43
オイデル	0	2	0	4
オイデダ	0	4	1	0
オミエダ	0	9	7	2
御+漢語	0	4	2	0
レル	90	23	24	3
動詞普通形式	44	23	55	209
その他	5	1	0	2
NR	3	1	8	5
総計	306	306	306	306

《結果》

- (1) 二重敬語、三重敬語の類が多数現れた。114 の対者場面では二重敬語 32 例で約 1 割に達している。第三者待遇場面（115、116 場面）では、二重敬語は 114 場面よりわずかに少なく現れ、三重敬語はこの場面にのみ現れている。オミエニナルはミエルは独立した敬語なのでここでは二重敬語としてカウントした。この形は標準語でも許容された二重敬語である。
- (2) オ～ニナルは 114 場面で 131 例と極めて多く、この場面で 42.8% の使用率に達する。
- (3) 敬語動詞のイラッシャルは 115 場面と 116 場面で最も多く使われ、115 場面では、172 例 56.2% に達する。
- (4) ミエルは 116 場面と 117 場面に多い。117 場面ではミエルが尊敬語形式としては最も多く使用される形式である。114～117 場面で用いられるミエルは辻（2014）でも指摘したとおり、「居る」「～ている」の意味で用いられており、標準語とは意味領域が異なる。

なお、114 場面のミエル（「書いてみえる」）の用例は「ずーっと」と共起しており、完成相としてではなく、「～ている」の意味で用いられている。

[1] センセ ムカシカラ エ カイテミエテネ ズーット コーヤッテ カイテミエマスカ
マー イー オモイデノ エデ アノ トッテモネー キレーニ カケテマス

(5) レルは 114 場面で 90 例使用されており、この場面ではオ～ニナルに次いで多く使用される形式となっている。レルは次いで 116 場面、115 場面の順に使用され、117 場面では使用数は少ない。

(6) 動詞普通形式は 117 場面で 209 例（使用率 68.3%）と最も多く使用されている。116 場面の使用数は 115 場面の倍以上 55 例（18%）である。

《考察》

- (a) 尊敬語形式分類による集計でも、115 場面の方が 116 場面より高い形式が選択される結果となっており、第三者の方が話し相手より形式の選択に強く作用していると言える。
- (b) 友達が相手の 117 場面と、話し手<話し相手>第三者の関係となる 116 場面でミエルがよく使われている一方で、対者場面である 114 場面でミエルがほとんど使われていないことに注目したい。表 2 を見る限り、ミエルは第三者として待遇する場合に使いやすい性格をもっているのではないだろうか。
- (c) 二重敬語や三重敬語は第三者敬語表現としてよりも話し相手として待遇する場合に多く使われる形式だと考えられる。

◇参考—中分類による場面間比較（114～117 場面）

表3 114~117 場面に現れた敬語形式（中分類による）

	114 先生の 絵	115.第三者 尊敬表現 【話し手<話し相手<話 題の人物】	116.第三者 尊敬表現 【話し手<話し相手>話 題の人物】	117.第三者 尊敬表現 【話し手=話し相手<話 題の人物】
尊敬語+名詞+丁寧語	1			
尊敬語(ミエルを含む三重敬語)+丁寧語		2	1	
尊敬語(二重)+丁寧語	4	28	23	
尊敬語+ミエル+丁寧語(二重)+推量		3	1	
尊敬語(二重)+{ノ/ン}+丁寧語	22			
尊敬語(二重)+名詞+丁寧語	4			
尊敬語(二重)+名詞+丁寧語+推量	2			
尊敬語+丁寧語(二重)+推量		7	11	1
尊敬語+丁寧語{マス/デス}	19	227	193	39
尊敬語+丁寧語{マス/デス}+推量		6	8	4
尊敬語+{ノ/ン}+丁寧語	162	2	1	
尊敬語+{ノ/ン}+丁寧語+推量	6			
尊敬語+名詞+丁寧語	32			
尊敬語+名詞+丁寧語+推量	2	1	1	
尊敬語+ン+ス	1	1		
尊敬語		5	4	45
尊敬語+推量				1
V+丁寧語(二重)+推量			1	
{V/N/ナadj}+丁寧語	8	20	49	39
V+{ノ/ン}+丁寧語	25	1	2	
V+{ノ/ン}+丁寧語+推量	1		1	
V+名詞+丁寧語	4			
V+名詞+丁寧語+推量	1			
V+ン+ス	2			
ナadj+カン(丁寧終助詞)	1			
動詞普通形式	7	1	2	168
動詞普通形式+推量				1
動詞普通形式+ン+推量				1
その他		1		2
NR(DKも含む)	3	1	8	5
合計	307	306	306	306

〈凡例〉114 場面の合計が多いのは、1名の回答者が二つの形式を使って回答したためである。以下に具体的な回答例の1部を示す。

尊敬語（ミエルを含む三重敬語）+丁寧語：オミエニナラレマスカ

尊敬語（二重）+丁寧語：イラッシャラレマスカ・オミエニナリマスカ・オカキニナラレマシタカ

尊敬語（二重）+ {ノ/ン} +丁寧語：オカキニナラレタンデスカ

尊敬語+ミエル+丁寧語(二重)+推量：オミエニナリマスデショーカ

尊敬語+丁寧語（二重）+推量：イラッシャイマスデショーカ

尊敬語+丁寧語 {マス/デス} +推量：オミエデショーカ・イラッシャルデショーカ・オラレルデショーカ

尊敬語+ {ノ/ン} +丁寧語：イラッシャルンデスカ・オカキニナッタンデスカ・オカキニナッタデスカ（辻 2014 参照）

3.2 114〔先生の絵〕場面の通時的分析結果

前節で二重敬語や三重敬語が、話し相手待遇について問う 114 場面で多く現れたことを述べたが、この場面は第 2 次調査でも調査項目に入っている。これらの形式が第 2 次調査でも同程度に現れたか、どうかを確認するために、この場面は第三者待遇ではないがここ

で確認しておくことにする。第2次調査と第3次調査とで出現した尊敬語形式について集計した結果を表4に示す。

表4 114場面〔先生の絵〕に現れた尊敬語形式の経年比較

	114.先生の絵	
	第2次調査	第3次調査
オ～ニナラレル	13	32
オ～ニナル	214	131
オ～ナサル	2	0
ナサル	1	0
ミエル	0	1
オカキル	8	0
オカキナル	1	0
カカラス	1	0
御+漢語	5	0
レル	85	90
尊敬語+形容詞	2	0
動詞普通形式	57	44
その他	8	5
NR	3	3
総計	400	306

表4から、二重敬語であるオ～ニナラレルの形式が、第2次調査から第3次調査の間に13例3.6%から32例10.5%と3倍近く増えていることがわかる。

オ～ニナルは減少しているが、オ～ニナラレルの増加分でいくらか相殺できるようにみえる。その他の形式に関しては、レルが微増、動詞普通形式が少し減少している。

二重敬語の増加は、辻(2014)で示した「敬語形式の重層化」を確認できる事例だと言える。

3.3 謙譲表現の使用状況

第三者を対象にした謙譲表現に関する調査項目である118場面の集計結果を、表5と表6に示す。

表5 118場面に現れた敬語形式（大分類による）

	118. 第三者_謙譲表現
謙譲語+丁寧語	72
動詞+丁寧語	182
動詞のみ	24
尊敬語+丁寧語	5
尊敬語	6
その他	4
NR	13
合計	306

表 6 118 場面に現れた敬語形式

オウカガイスル	1
マイル	71
動詞普通形式	206
オミエニナル	1
イラッシャル	1
ミエル	3
オイデル	1
レル	5
その他	4
NR	13
合計	306

《結果》

- (1) 謙譲語を用いた回答が 72 例 (23.5%) 認められる。用いられた形式はマイルが圧倒的で、オウカガイスルが 1 例である。
- (2) 標準語の規範的な運用では間違いとなる尊敬語の使用（網掛け部分）が僅かだが認められる（11 例 3.6%）。使用された形式はレル（「来られる」）が半数近くで、ミエルがそれに次ぐ。

《考察》

- (a) 他人を相手に身内を話題に尊敬語を使用するという回答の率は 3.6%にとどまるという結果は、この点に関しては第三次調査の時点ではほぼ標準語の規範に沿った運用が行われている、といえよう。
- (b) 謙譲語の使用も一定程度認められることから、謙譲語が地域言語として定着している可能性がある²⁾。

◇補足—113〔市役所〕場面の経年比較

113〔市役所〕場面は、父に頼まれて市役所に行くところだということを目上の人に言う、という内容の場面で、もともとは身内尊敬用法、ひいては絶対敬語的運用がおこなわれているかどうかを確認するために設けられた場面だと思われる。辻(2014)に、この場面で尊敬助動詞レルが多数回答されていることを報告しているが、ここで、改めて第 1 次～第 3 次までの調査結果を表 7 に示したい。表 7 には、例文 [2] のように父親がガ格で現れている回答のみを集計した。父親がニ格やカラ格で現れている場合は、受身のレルだと考え集計していない。

[2] オトツツァンガ シヤクショエ イケ ッテイワレタデ イキマス(第 1 次調査)

²⁾加藤 (1973: 47,48) では、「これ (=謙譲語; 筆者注) のスムーズに使える土地は少なく、この歴史の浅いことを思わせる」と述べられている。

表 7 113〔市役所〕場面：父親が主語（ガ格）の場合に対応する述部の出現敬語形式

	第 1 次調査 N=429	第 2 次調査 N=400	第 3 次調査 N=306
申す	20	1	
動詞普通形式	176	26	6
オッシュャル	6		
「オ+動詞連用形+ル」形	3		
ミエル	1		3
レル	86	15	
合計	292	42	9

〔凡例〕 第 1 次調査「申す」：モースの他に、モス・申シテオル各 1 例含む。
「オ+動詞連用形+ル」形：オ言イル・オ言ル・オ行キルの形で出現
動詞普通形式：チュータ、チッタ（以上第 1 次調査）とッタ（第 3 次調査）を含む

結果を見ると、ガ格での回答自体に調査により数字上大きなばらつきがあるのがわかる。これは、第 1 次調査の時は調査員に父親がガ格となる回答を求めるような指示が徹底していたが、第 2 次調査時と第 3 次調査時ではそうではなかったためではないかと推察する。

表 7 を見ると、第 1 次調査では、網掛けとした尊敬語を使用するという回答数は 296 例中 96 例（29.4%）とかなりの数にのぼり、調査地の方言的土壌としては身内尊敬用法が行われていたと考えて良いのではないと思われる。

第 2 次、および第 3 次調査では、尊敬語の出現数は少ないが、率としては 30%を上回る結果となっている。

4. まとめと今後の課題

以上により、第 3 次岡崎敬語調査の結果を第三者敬語に焦点をあててまとめると次のようなことが言える。

（一）第 3 次調査の時点では、話題の第三者が話し手より上位の場合、その第三者に対して尊敬語が高頻度で用いられる。相手が友人のような場合でも、尊敬語が 3 割程度用いられる。

（二）話し手より話題の第三者が上位の場合で、かつ、話し相手も上位である場合、第三者と話し相手との関係を斟酌して、尊敬語の使用が抑制されるようである。これは、115 場面の方が 116 場面より丁寧な形式が選択されるという結果から導かれる。このような運用は相対敬語的運用の一つの姿だといえる。

（三）第 3 次調査の時点では、身内尊敬用法はほぼ認められず、痕跡程度に残っているにすぎない。しかし、第 1 次調査のデータの分析結果からは、その調査時点では身内尊敬用法が根強く残っていたと推定できるものも確認できた。

（四）第三者待遇で用いられる尊敬語は相手により、話題により多様な形式が用いられる。三重敬語や二重敬語、敬語動詞、ミエル、オイデル、レルなどである。このうちミエルは

話し相手が友人の場合に第三者敬語として、最も多く使われる形式であった。二重敬語は話し相手待遇と、第三者待遇の話し相手と第三者ともに上位の場面で一定程度使用されていた。第三者待遇のうち、上位の相手に、さらに上位の人物を話題にする、という場面の方がより多かった。三重敬語もその場面で現れた。

(五) 二重敬語は話し相手待遇 (114 [先生の絵]) 場面で多く現れたが、この場面について第2次調査と第3次調査で比較してみると、3倍近い増加が認められた。これは「敬語形式の重層化」(辻 2014)を示す一つの事例だと考えられる。

上記(一)の結果から、岡崎市では、敬語体系全体の丁寧語化が浸透していると言えない状況だといえる。その一方で宮治(1987)が指摘するような近畿中央部方言の状況とも異なるようである。両者の中間的な、相対敬語的な運用が行われている、といえるのではないかと考える。

(二)(三)(四)の結果から、岡崎市の敬語運用体系を帰納すると、絶対敬語的な側面が薄れた一方で、相対敬語的な側面は維持されていると考えられる。

今後の課題としては、二重敬語や三重敬語、および第三者尊敬表現としてミエルを使用すると回答した人、さらには、友人が相手に話題が先生の場合に尊敬語を使用すると回答した人の世代差や性差、学歴差など属性との相関を調べると、変化の様相がみえてくるのではないかと思う。このようなことについて明らかにすることを今後の課題としたい。

参考文献

- 井上史雄(1981.1)「敬語の地理学」『國文學 解釈と教材の研究』26-2:39-47 學燈社。
加藤正信(1973)「全国方言の敬語概観」『敬語講座 6 現代の敬語』25-83 東京：明治書院。
菊池康人(1994)『敬語』東京：角川書店。
国立国語研究所編(2006)『方言文法全国地図』第6集 財務省印刷局。
辻加代子(2014)『国立国語研究所論集』7:265-287 東京：国立国語研究所。
宮治弘明(1987.12)「近畿方言における待遇表現運用上の一特質」『国語学』151:38-56
宮地裕(1971)『文論』東京：明治書院。

大規模経年調査資料集 **24**

Material for Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

岡崎における第三者敬語の位置づけ

Placement of Third Person Honorifics in Okazaki

(Ver. 1.0)

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著: 辻加代子・井上史雄

TSUJI Kayoko・INOUE Fumio

発行:平成 27 年 9 月 1 日 1 Sep 2015

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2 Tel. 042-540-4300(代)

10-2 Midori-cho, Tachikawa City, Japan 190-8561

<https://www.ninjal.ac.jp/>